

尾花沢市議会だより編集委員会報告書

《委員長 鈴木 清》

I 行政調査報告

1. 実施日 令和3年11月5日（金）
2. 視察地 山形県川西町
3. 参加者 委員長 鈴木 清 副委員長 和田 哲
委員 塩原未知子 委員 星川 薫 委員 菅野喜昭
委員 安井一義 委員 鈴木由美子

4. 報告

川西町は議会だより全国コンクールで2回の最優秀賞、12年間連続ベスト10入りの全国を代表する議会広報誌を発行しています。

見やすいレイアウト、見出し、リード文で本文をよみやすく、住民参加型の紙面づくりをしています。住民の声を聴き、政策提言していくためには、常任委員会にする必要があること、アドバイザー、モニターを活用することなど、議会と広報のあるべき姿を学びました。

本市議会だより109号、110号を厳しくクリニックしていただきました。

- ① 議会だよりは何を主張したいかを明確に。特集があれば前に載せるべき。
- ② 表紙の写真が地味で少し暗いのではないか。
私たちは子どもたちを写し、元気が出る躍動的なものにしている。（表紙の工夫をみている写真）
- ③ 私たちは編集委員会を常任委員会にしている。住民への広聴が大切なので、広聴広報の順番の「広聴広報常任委員会」と名付けている。なぜ常任委員会か。それは住民の声を聴き、政策提言していくことが必要だからだ。特別委員会では無理であると考えている。
- ④ 見やすいレイアウトに心がけること。写真で引きつけ、文を読ませている
- ⑤ 住民にまちの問題点に興味をもってもらうことが大切。町民参加の記事・コーナー（まちかどインタビューなど）を拡大している。
- ⑥ 読んでいただくためには見出し・リード文が大切で、本文へと導入している。
- ⑦ 分かりやすい文章を書くためには『新聞記者ハンドブック』を活用することをすすめる。
- ⑧ 編集委員に文章と写真のアドバイザー（2名ずつ）をお願いしている。
- ⑨ 最後に「私たちの川西町の議会だよりはまだ良いものになっていない。町民が本当に知りたい、読みたいものになっていない。残念ながらこの程度。ともに良い議会だより作りをがんばっていきましょう。」とエールをいただきました。

Ⅱ 山形県市議会議長会 議会報研修会

1. 実施日 令和3年11月5日（金）
2. 会場 南陽市民文化会館「シェルターなんようホール」
3. 講師 東北芸術工科大学 グラフィックデザイン学科
准教授 赤沼 明男 氏
4. 演題 「デザインの役割」
5. 参加者 委員長 鈴木 清 副委員長 和田 哲 委員 塩原未知子
委員 星川 薫 委員 安井一義 委員 鈴木由美子

6. 報告

- ① 先ず、私達は東北芸工大の学生のように「デザインの役割」について講義を聴きました。デザインの役割とは — 見えないものを可視化する/分かりにくいことを分かりやすく/使いにくいものを使いやすく/知っていることをより深める/情報を正確に分かりやすく伝える・・・最終的に「デザイン」は問題を解決へ導くための「設計」と「表現」を行うこと・・・。

議会報への実践レイアウトの基本は「揃える」「分ける」「崩す」。まずはページマージンの設計から素材集め、特に表紙は全ての入り口となる。写真に手を抜かない、タイトル、周りのデザインに手を抜かない。— ということです。

- ② 残念ながら時間がなく13市の議会報のクリニックはありませんが、最後に講師の「議会だよりは住民へのラブレターだ」という言葉が心に残りました。

住民へのラブレターとなるよう文（言葉）と写真、デザインをみがいて、読まれる市議会だよりにチャレンジしていきたいと考えます。